

平成29年度

- 第 1 回 -

藤 岡 市 総 合 教 育 会 議 議 事 録

藤 岡 市

平成29年度第1回藤岡市総合教育会議議事録

日 時 平成29年6月22日(木)
午後2時
場 所 教育庁舎3階 第1会議室

協議事項

- (1) 協議・調整 教育行政に関する協議・調整について
- (2) その他

出席者

市長	新井利明君	教育長	田中政文君
教育長職務代理者	増田寛君	教育委員	小柏繭子君
教育委員	関口澄雄君	教育委員	中島知砂君

説明のため出席した者

教育部長	御供英宏君	教育総務課長	飯塚公明君
学校教育課長	吉崎仁君	生涯学習課長	鈴木茂信君
文化財保護課長	軽部達也君	スポーツ課長	山口善弘君
学校給食センター所長	塚本良君	図書館長	原善孝君

事務局職員出席者

教育管理係長	吉田隆司	主事	堀越智也
--------	------	----	------

会 議 の 概 要

開会 14時00分

教育部長（御供英宏君） みなさん、こんにちは。ただ今より平成29年度第1回藤岡市総合教育会議を開催いたします。本日司会を務めさせていただきます、教育部長の御供です。よろしく申し上げます。藤岡市総合教育会議は、平成27年4月、地方教育行政の組織及び運営に関する法律が改正され、その設置が定められました。この総合教育会議では、市長と教育委員会が十分な意思疎通を図り、藤岡市の教育の課題や、あるべき姿を共有しながら連携して教育行政の推進を図ろうとするものであります。開催にあたり、主催者であります、新井藤岡市長よりご挨拶を申し上げます。

市長（新井利明君） 総合教育会議開会にあたり一言挨拶を申し上げたいと思います。

本日は、大変お忙しい中、平成29年度第1回藤岡市総合教育会議にご出席いただきありがとうございます。

本日は、学校給食センター所長が出席しておりますけれども、間もなく、新給食センターの建設工事が終わります。新給食センターの建設により、子ども達に安心安全な給食を提供していただきたいと思います。また、皆様のご理解をいただき進めていきたいと考えています。

近年、いじめ問題ではマスコミからの指摘が多くあり、後手に回ってしまった時は社会から非常に厳しい目で見られると思いますが、皆さまと協力していきながら、そのような問題にいち早く教育委員会として対応できるように教育長をはじめ、各課長にお願いしたいと思いますので、今後ともよろしく申し上げます。

以上で開会にあたっての挨拶とさせていただきます。

教育部長（御供英宏君） ありがとうございます。続きまして、田中教育長より挨拶をお願いします。

教育長（田中政文君） 先ほど市長よりありましたとおり、本日は、総合教育会議の開催が出来たことに感謝申し上げます。

日頃から、教育委員会の中で色々話し合っているなか、本日は市長を交えて協議することができ、大変ありがたいと思っています。

学校給食センター及び特別支援学校高等部についても建設できるというこ

とで大変ありがたく思っています。また、エアコンにつきましても、今年度、設計業務委託を進めております。

本日の内容についてですが、子ども達の学力向上についてです。平成26年度より小中一貫教育が始まって4年目になり、少しずつ形になってきているかと思えます。

続いて地域連携の強化ですが、他人の意見を聞き地域を愛する子どもを目指すということで、様々な事業を進めており、現在、国が進めている地域とともにある学校、コミュニティ・スクールを目指しています。

最後に、いじめ問題の件については、しっかり解決していかなければならないと考えております。最近の子どもを見ると、いつ、どこで、いじめが起きるかわからないのが現状であります。これについても、人権教育、道徳教育等、全教育活動を通して、いじめの未然防止に努めたいと考えています。

本日は学校教育中心でありますけれども、子ども達のために慎重審議していただきたいと思えます。以上で挨拶とさせていただきます。

教育部長（御供英宏） ありがとうございます。それでは協議事項に移らせていただきますが、進行につきましては、新井市長よりお願いいたします。

日程第1「教育行政に関する協議・調整について」

市長（新井利明君） それでは指名を受けましたので、議事を進行させていただきます。よろしくお願いいたします。早速ですが、日程第1「協議・調整」に入らせていただきます。本日の会議資料は、事務局に用意してもらいました。まずは、資料1小中一貫教育の推進及びコミュニティ・スクールの導入について、説明を事務局からお願いいたします。

学校教育課長（吉崎仁君） 学校教育課長の吉崎と申します。よろしく申し上げます。それでは、資料1小中一貫教育の推進及びコミュニティ・スクールの導入についてご説明させていただきます。資料をご覧ください。まず、「市内全ての子ども達の学力の向上」、「地域を愛する気持ちを育てる」という新井市長の教育に対する思いを受けまして、小中一貫教育の推進により学力向上を図っております。また、教育委員会では笑顔、やる気、希望に満ちた子ども達の育成に取り組んでおります。

平成26年度より、新井市長のご指導を仰ぎながら、小中一貫教育をスタートさせ、各中学校区で目指す子ども像を定め、小中学校9年間を見通した

カリキュラムに基づく授業づくりや、子どものやる気を育てる生徒指導に取り組んでいます。

お手元の学校要覧をご覧ください。表紙は学校の紹介となっています。中面をご覧ください。一番上の東連携型小中一貫校についてですが、これは東中学校、藤岡第一小学校、美九里東小学校、美九里西小学校、4校で連携型小中一貫校とし、学校要覧を作成しております。掲載内容として、豊かな心、高い知性、たくましい気力・体力を身に付け、郷土を愛する子ども、が東中学校区で進めている小中一貫教育で目指している子ども像になります。また、各中学校区が、学力の向上、生徒指導の継続、豊かな心の育成と体力の向上、家庭・地域との連携などの柱を置き、各小中学校が同じ流れで教育を9年間行えるよう進めてまいりました。引き続き、教育内容の改善に向けて取り組んでまいりたいと思っています。この資料につきましては、時間がある時にご覧いただければと思います。

資料等はありませんが、英語教育に関しては、市長の「英語教育の充実を図る」という思いを受け、教育委員会でも様々な取り組みを行っています。平成32年度から始まる英語教育の教科化等を見据え、平成26年度に文部科学省に教育課程の特例校申請を行い、現行の学習指導要領では小学校5・6年生だけ外国語活動を行うことになっておりますが、平成27年度より市内の小学校全学年において外国語活動を実施しています。市当局のご理解の下、市内小中学校にALT9名を配置していただき、おかげさまで学習指導の充実が図られ、児童生徒のコミュニケーション能力の育成が図られています。

このような小中一貫教育の実施により、近年の全国標準学力テストの結果を比較すると、着実に伸びが確認できております。特に、中学生の学力が伸びてきたことは、小中一貫教育の成果が表れてきたものと考えられます。

次に、地域連携の強化についてです。「保護者や地域の意見をしっかり聴いて学校運営を進めてほしい」という新井市長の思いを受け、各中学校区の学校要覧にも位置付けている通り、地域連携の強化に努めております。

これまでも地域人材の活用、地域を教材とした学習の充実、地域への情報発信等、地域との繋がりを大切にした教育を進めた結果、各学校の努力により、読み聞かせ、子どもの安全確保等の取り組みが定着してきたと考えられます。

更に、従来から行われてきた活動に加え、民生児童委員との情報交換の充

実、授業における地域ボランティアの児童生徒支援などの新たな取り組みが始まり、地域と学校との繋がりが一層強くなってきております。

しかしながら、地域の方々によっては学校の敷居が高く、安易に行けないなどの声もいただいておりますので、改善していきたいと考えております。今後とも、地域連携の強化を図るためには、学校と家庭・地域がもっと繋がるための仕組みづくりが必要です。この仕組みのことを、文部科学省ではコミュニティ・スクールと表現しており、本市でも地域連携の一層の強化を図るためにこの仕組みを導入し、更なる充実を図りたいと考えております。

続きまして、コミュニティ・スクールの導入についてですが、資料の2ページ目をご覧ください。コミュニティ・スクールとは、学校運営協議会を設置している学校のことを指しております。この協議会は、保護者、地域の方、ボランティアの代表の方、学識経験者、校長等をメンバーとし、校長が示す学校運営の基本方針の共通理解を図り、学校課題の解決に向けて知恵を出し合ったり、地域の方々による子ども達の学習支援等について検討したりするなど、学校の教育活動を支えていただいております。要は、学校と家庭・地域の繋がりを更に強め、地域全体で子どもを育ていく体制をつくるための仕組みとなります。

次に資料3ページ目のコミュニティ・スクールの取り組みで広がる魅力及び成果についてです。この魅力につきましても子どもにとっての魅力、教職員にとっての魅力、保護者にとっての魅力、地域の方々にとっての魅力が記載されておりますが、学校教育が充実し教職員は子どもと向き合う時間が確保でき、そして保護者及び地域の皆様が学校のことを理解していただき、地域ネットワークが形成されることが魅力であると考えられます。成果につきましても、「学校と地域で情報を共有するようになった」、「地域が学校に協力的になった」、「特色ある学校づくりが進んだ」など、導入している学校からの調査結果がまとめられております。

今後の計画ですが、本年度より文部科学省の学校を核とした地域力強化プランにおける「コミュニティ・スクール導入等促進事業」の指定を受けて、「藤岡市地域とともにある学校づくり推進事業」を立ち上げ、藤岡第一小学校を実践研究モデル校として、コミュニティ・スクールの導入に向けた取り組みを始めました。

5月24日に、藤岡第一小学校において第1回学校運営協議会が開催され

ました。年間5回学校運営協議会を開催し、地域とともにある学校づくりに取り組んでいきます。また、既に行われてきた児童の登下校時のパトロールや読み聞かせなどに加え、婦人会の皆さんに花壇の手入れをお世話になったり、藤岡公民館のサークル活動に小学校の特別教室を会場として提供するなど、地域の教育力を生かした新たな取り組みが始まっています。

今後、その中心となる地域コーディネーターを選任して、学習や学校行事等において地域の教育力を組織的に活用し、学校の教育活動の一層の充実を図っていきたいと考えています。

資料4ページに、地域コーディネーターの機能と業務について記載させていただきました。地域コーディネーターとは簡単に申し上げますと、学校のニーズに応じて、必要な地域人材等を見つけて依頼するなど、学校の教育活動の支援を行います。詳細は、資料の4ページ目をご覧ください。本年度、藤岡第一小学校がモデル校として取り組んだ活動を参考にしながら、他校にも、徐々に同様の仕組みを導入していきたいと考えています。

小中一貫教育の推進とコミュニティ・スクールの導入により、校長や教職員が代わっても変わらない持続可能な学校文化を創り、各連携型小中一貫校が特色ある教育活動を展開できるようにすることを目指しております。また、市内全ての子どもたちの学力を向上させ、地域を愛する気持ちを育てることができるよう学校教育の一層の充実を図っていきたいと考えています。以上です。

市長（新井利明君） ありがとうございます。事務局から説明がありましたが、説明に対して何かご意見をお聞きしたいと思います。

委員（関口澄雄君） 説明のありました小中一貫教育の取り組みについて、それなりの成果があり、成功していると受け止めております。また、地域連携の強化ですが、地域と学校との繋がりが以前よりも一層強くなったと聞き、安心しております。ただ、コミュニティ・スクールについて伺いたいことがございます。コミュニティ・スクールは文部科学省で平成17年度頃から始めていたと思います。県内においては、高崎市、伊勢崎市の教育委員会で約8校が取り組んでいますが、それらコミュニティ・スクールでの効果・反省をお聞きしているか教えて頂きたい。

更に1点、昨年まではコミュニティ・スクールは指定でしたが、今回は導入となっております。これについての違いを教授願います。

市長（新井利明君） 学校教育課長。

学校教育課長（吉崎 仁君） まず初めに、県内のコミュニティ・スクールの様子ですが、高崎に3校、伊勢崎に7校、計10校でございます。各学校の様子をお聞きしたところ、地域の方々が学校に入ってくる人数が増えた、ボランティアの数が多くなった、これにより教育活動の充実が図られ、教職員も助かっていると聞いております。

続いて、指定と導入についてですが、このコミュニティ・スクールについては、教育委員会で規則を定め、学校を指定しておりますので、現在、教育委員会規則の作成を進めております。藤岡第一小学校については、モデル校として研究しておりますので、今年度中に教育委員会規則を定め、指定したいと考えています。

委員（関口澄雄君） ありがとうございます。たしかにコミュニティ・スクールは学校の保護者と地域の方々が一体となってお互い知恵を出し合って推進していくことが重要だと考えられますので、この事業を導入していけば、今以上に子ども達と地域の方との繋がりが深くなり、子ども達の成長も豊かになると思います。私自身としては、もう少し早めにコミュニティ・スクールを導入していただければと思いました。今回の会議にて、導入すると説明がありましたので更なる活力になると受け止めております。以上です。

市長（新井利明君） ありがとうございます。他にございますか。

教育長（田中政文君） はい。

市長（新井利明君） 教育長。

教育長（田中政文君） コミュニティ・スクールの指定は県内の高崎市、伊勢崎市の数校ですけれども、県外ではコミュニティ・スクールと小中一貫教育は一体的なものとして捉えており、関東では多くの学校で取り入れられております。県内では、まだ多くみられておりません。コミュニティ・スクールのメリットとしては、学校運営協議会委員などの役職をお願いすることで、地域の方が学校に行きやすくなるということが重要だと考えます。また、教職員の多忙化解消のために、ボランティアを活用することが効果的であると考えられます。最後に、学校の規模が少し小さくなっている傾向があります。その際、子ども達の学びに必要なことは、色々な方々との対話が重要と言われており、学習面でも大きな効果があると考えられます。

市長（新井利明君） ありがとうございます。他にございますか。

委員（増田寛君） はい。

市長（新井利明君） 増田委員。

委員（増田寛君） コミュニティ・スクールの活動はとても良いと感じております。

地元の方々との対話は子どもが成長すると考えられますが、心配な点がござ
います。以前、PTA会長の役職を担っている方が罪を犯した問題があった
ことから、同様な事件等を発生させないためにも人選を慎重にすることが重
要だと思います。

市長（新井利明君） ありがとうございます。基本的には区長に推薦をお願いして
おり、地域の区長とも連携を取りながら進めてもらえればと思います。ただ、
以前の事件は極端ですが、保護者が心配しますので注意が必要です。

委員（増田寛君） 役職を担っている方でも、内面では罪を犯すことを考えている
可能性があるため、注意が必要と考えられます。

市長（新井利明君） ありがとうございます。他にございますか。

続きまして、日程第2「その他」について、資料2「いじめ問題の現状と対
応について」の説明を事務局よりお願いします。

学校教育課長（吉崎仁君） はい。それでは資料2をご確認ください。1のグラフは平
成28年度いじめ被害件数であります。見出しのとおり、小学校14件、中
学校12件、計26件が平成28年度発生しました。折れ線グラフでは各学
期の間関係が出来つつある中頃に件数が増えてきていると考えられます。
そのいじめの主な対応としては、冷やかし、からかい、悪口、仲間外れ、集
団による無視、誹謗中傷等となっております。また、平成25年度から平成
27年度までの件数が掲載しております。平成25年度が合計7件、平成2
6年度が合計23件、平成27年度が合計16件で報告されております。な
お、この中には重大事態に至ったものはありませんでした。

平成29年度藤岡市いじめ問題調査委員会を6月20日（火）に開催いた
しました。本年度は、重大事態が発生した際の委員会の動きや調査の流れに
ついて「重大事態対応フロー図」をもとに確認し、協議を行いました。重大
事態とは資料に記載されております非常に重たいじめの状況を指しており
ます。学校から報告を受けまして教育委員会を招集し、重大事態の調査方法
等について協議、決定し内容及び調査主体等を市長へ報告する流れとなっ
ております。調査の流れになりますが、教育委員会の要請を受け、藤岡市い
じめ問題調査委員会の委員長が藤岡市いじめ問題調査委員会を招集し、事実や

経緯等が明確になるような事実確認するための調査を実施します。そして、藤岡市いじめ問題調査委員会が調査結果を教育委員会へ報告致します。教育委員会は被害児童生徒・保護者へ調査報告書を提供し、市長へ提出致します。最後に、教育委員会による調査結果を踏まえた必要な措置を講じます。このような流れでいじめ問題調査委員会で確認を致しまして、緊急時に万全な対応をとれる体制をつくっています。

いじめ問題解決に向けた子ども会議ですが、毎年開催しております。小中学生がいじめ問題解決に向けて話し合いを行い、やるべきことを決定し、皆で実行する会議を開催しております。平成25年度に決定したスマイルハイタッチあいさつ運動、ハッピーはーとふるツリー等の活動は現在も継続しております。昨年度は、「藤岡市ネットいじめ防止行動目標アクション3」を決定しまして、各小中学校に持ち帰り、生徒会・児童会が中心となって活動しております。

いじめ問題解決に向けた中学校教育懇談会ですが、本年度は今日までに3校区を実施しており、本日は西中校区、6月30日に北中校区で実施する予定です。出席者は区長、民生児童委員、保護者、教職員などで、実施したアンケート結果を基に、いじめ防止のための人間関係づくりについて、いじめの発見、防止のためのそれぞれの取り組み方法等をグループで協議しています。昨年度に比べ参加人数は増加しており、各会場50名～80名となっています。保護者、地域の方々にご理解いただきまして、活動しております。このような取り組みを継続していき、いじめの未然防止に努めたいと存じます。以上です。

市長（新井利明君） ありがとうございます。事務局から説明がありましたが、説明に対して何かご意見をお聞きしたいと思います。

近年、インターネットの普及が進んでおり、我々の世代はこのような仕組みに疎い部分があります。

教育長（田中政文君） 近年、スマートフォン等の普及により、インターネット上のやり取りが便利で身近なものになってきています。しかし、その便利さがかえって問題にもなっております。先日の子ども会議においても、メール等で、返信しないなどの行為の積み重ねが、やり方によってはいじめになるという話が出ました。市長もおっしゃっていましたが、何がいじめで、何がいじめではないかを判断することが難しい状況です。授業及び休み時間等で発言

したことにより笑うなどした場合は判断できますが、ネット上では隠れた部分があり、判断が難しい。

委員（小柏繭子君） 定期的に先生方が検索していると思いますが、私自身、母親として心配して子どもの名前を検索すると、学校名等の情報がでてきます。サイトなどを閲覧すると、「これはいじめではないか」と思うものがあります。

市長（新井利明君） この件については、本当に大事なことだと思われま。第3者が自由に閲覧できるということは大変危険です。

委員（小柏繭子君） ネットは世界に発信していますので、十分注意が必要と思います。

委員（中島知砂君） SNSで検索すると学校名が出てきたりしています。

教育長（田中政文君） そのような類のものはネットパトロール等で発見しやすいと思いますが、メール等の個人間でのやり取りになってしまいますと情報が公開されておりませんので、中身が分からないということになります。メール等でも返信をしない、また、返信した内容でも問題になるなど、同じことでもいじめになる、ならないの判断は大変難しいことだと考えられます。

委員（小柏繭子君） 気付いた時には存在しているため、我々も含め子ども達自身もこれから色々考えていくことが重要と思います。

委員（関口澄雄君） 資料のグラフを確認すると中学生の場合、平成25年度に1件、平成26年度に6件、平成27年度に3件でしたが、平成28年度が12件と増加しておりますが、原因はあるのでしょうか。

学校教育課長（吉崎仁君） 具体的な理由はわかりませんが、教職員のいじめを見つける目が育ってきたことが考えられます。様々な方法で子ども達と向き合ったことが、件数増加の理由の一つと思われま。また、国及び県でもいじめを発見した後、どのように対応したかが重要であるとされ、教育委員会としても同様の指導をしており、その結果も理由の一つと考えられます。

市長（新井利明君） ありがとうございます。他にございますか。意見等はありませんでしたが、日程第2その他ですが、発言等ありましたらお願いします。

委員（増田寛君） はい。

市長（新井利明君） 増田委員。

委員（増田寛君） 通学路の関係です。市内各地で歩道等の整備が進んでいるかと思いますが、まだ未整備の箇所がございます。市の計画があるため早急に整

備できないことは存じておりますが、今後、対応頂きますようお願い申し上げます。

市長（新井利明君） 関係部局と協議していき、今後対応したいと考えております。他によろしいでしょうか。

出席者全員 意見なし

市長（新井利明君） 本日貴重な意見をいただきました。大変ありがとうございました。今後、市長部局、教育委員会事務局においてこれから更に藤岡市の教育行政に活かしていきたいと思えます。それでは、以上をもちまして、第1回藤岡市総合教育会議につきましては、終わらせていただきます。ありがとうございました。

教育部長（御供英宏君） ありがとうございました。それではこれをもちまして、平成29年度第1回藤岡市総合教育会議を終了いたします。次回、総合教育会議は、招集すべき議題が発生した場合に随時開催したいと思えますので、よろしく願いいたします。ありがとうございました。

（14時35分）